

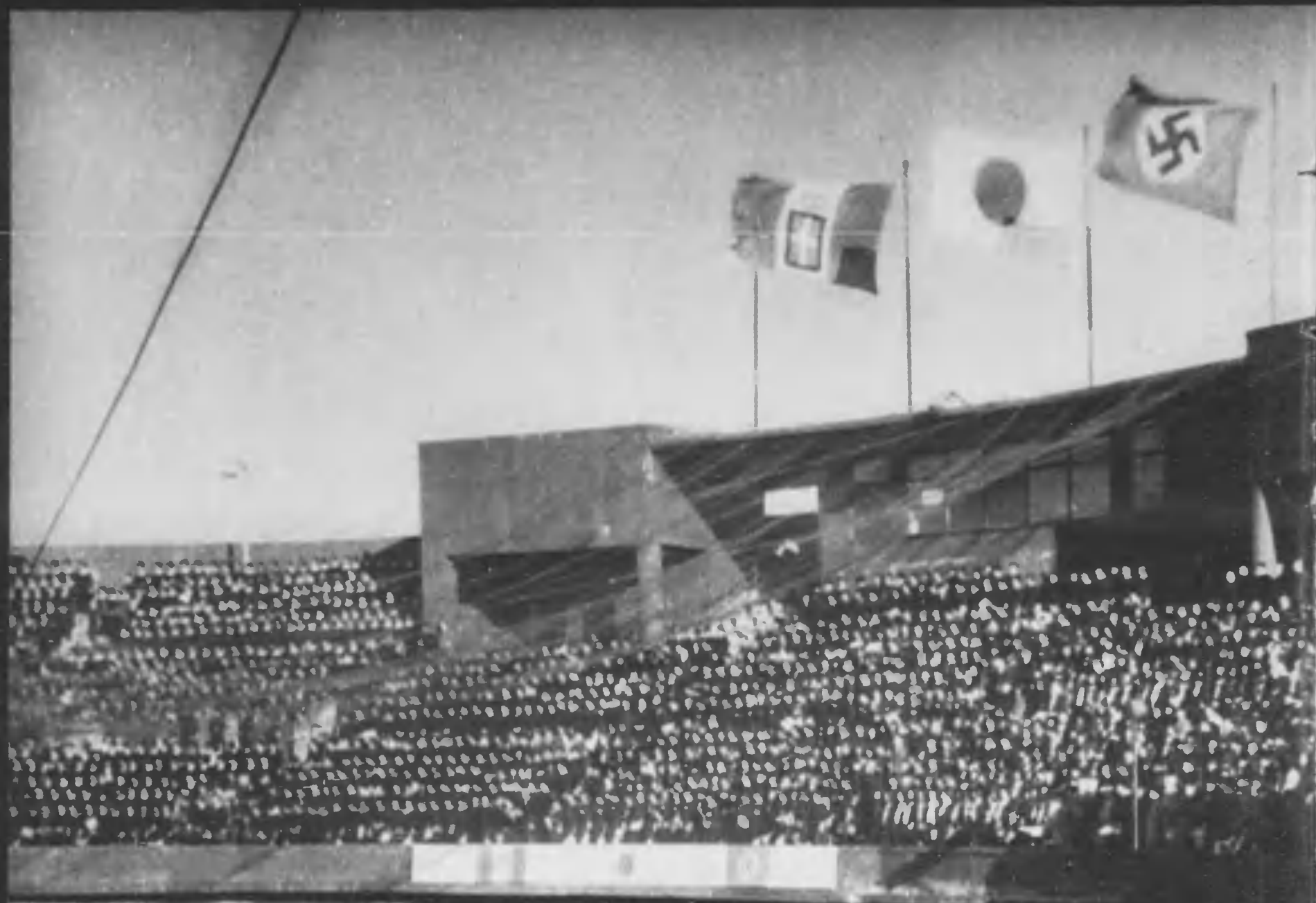
寫眞週報

編輯部報情閣内
ンセ十・號三十四第・日七月二十

昭和十三年七月二十日 第三十四號 內閣情報編輯部 (東京) 發行 (東京) 發行 (東京) 發行

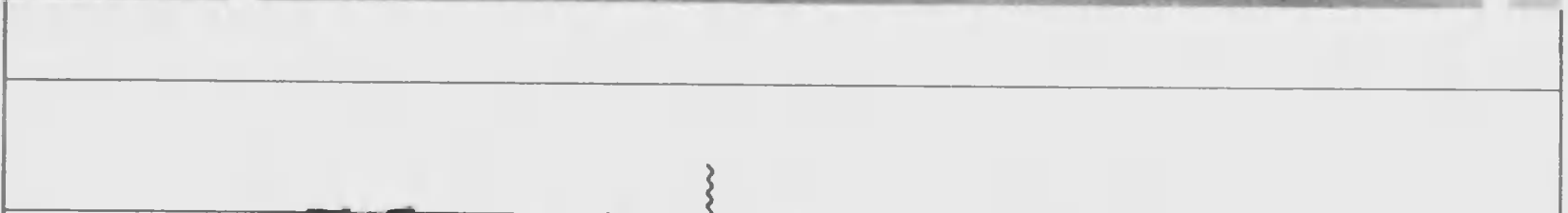
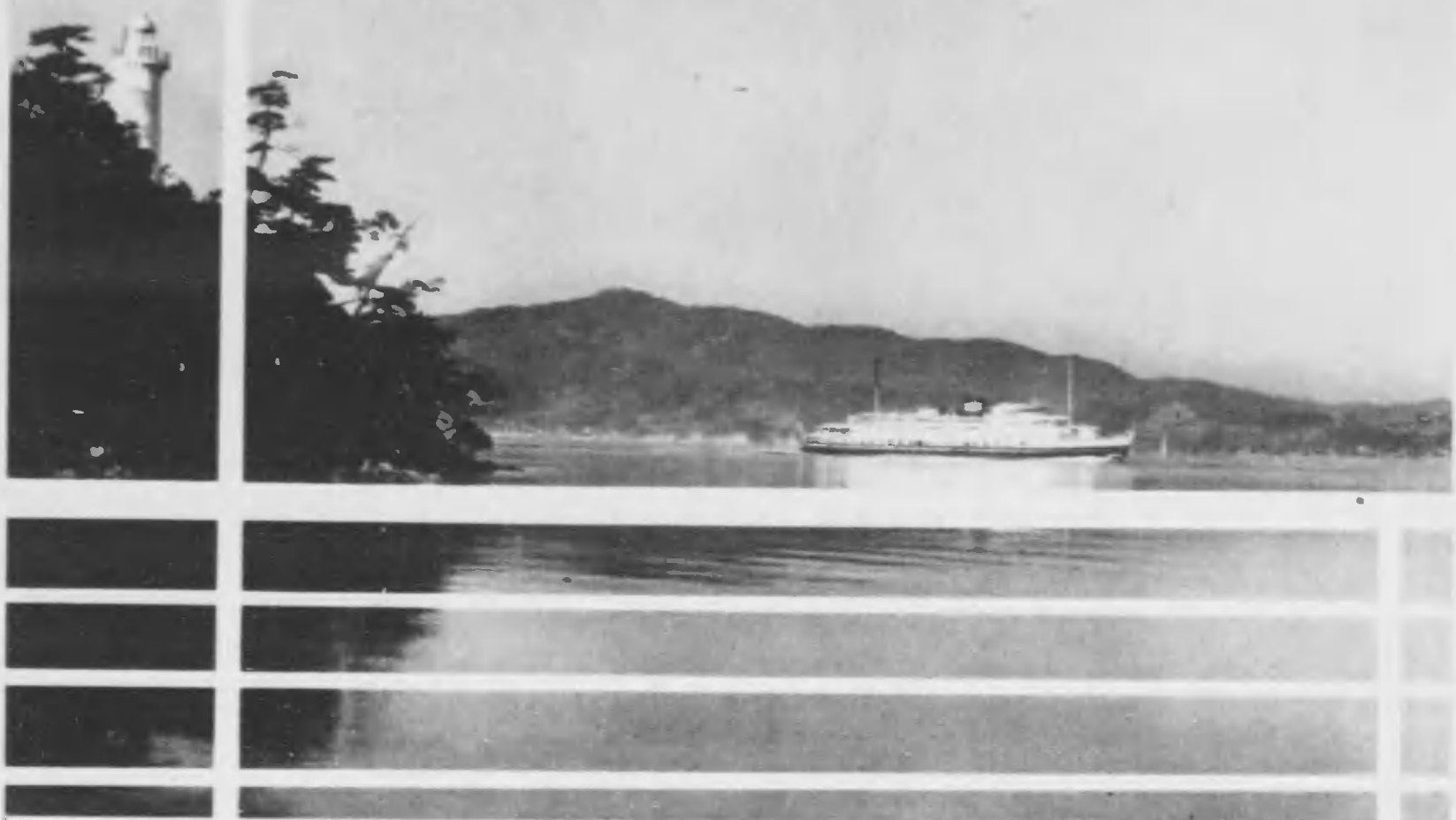
學ぶ航空機關生





防共の誼こゝに二年
 防共協定記念會主催、國民精神總動員中央聯盟及び東京府、市後援の防共協定記念國民大會は日滿防共協定締結二周年記念を祝して十一月廿五日東京小石川の後樂園スタジアムで、隈も参謀總長宮殿下の台座を仰ぎ奉り盛大に開催された。有田外相、八田拓相、オット、アウリ、チ伊、既滿洲國各大使をはじめ朝野の名士多數列席、十萬の参加者は盟邦との友誼を讃へ、銃後の緊張を契つた。

旅の船 上向位体



北支へ	瀬戸内海へ
満洲へ	沖繩へ
臺灣へ	
朝鮮へ	
日本から日本へ	
世界一周の旅	
香港、新嘉坡、印度	
一四六磅より	
阿弗利加、南米、北米行	
壹萬噸級船月二回就航	

大 阪 商 船

(呈進書内案)

航空機の生



航空機の生とは切つても切れない関係だ。空中航法を修得するためにはまづこれから勉強しなければならぬ。

木工實習—
翼の骨組みを作るもの、プロペラを削るもの、かろうじ基礎實習をやつてこそ、はじめて飛行機の骨の中まで知ることが出来る。先づ手始めにグライダーを製作する。



建設の大業を達成するためには、豊富な物資とともに豊富な人材、殊に凡ゆる方面の積極的な参加が必要である。政府はこの人材を急速に養成充實するため最大限の努力を拂つてゐるが、大陸に上りよその購買を併分に伸ばさねばならぬが民間航空についても、明日の大民間航空を築き上げるべき若い操縦士、若い機師の大量養成が燃眉の急務となつてゐる。

通信省は大正十四年以來、東京府立工業学校に委託して、國費を以て航空機師の養成をづけ、こゝから巣立つた操縦士はわが民間航空発展の先驅となつて、内地は勿論、滿洲、支那の第一線に活躍してをり、中にはその名を世界航空界に馳せてゐるものも少なくない。然し現在のわが操縦士の人員は、英、米、獨、佛等に比べると遺憾ながらまだ少く、今度の事變を契機として飛躍的發展を遂げたわが民間航空界にあつては、操縦士と同様機師に著しい不足を告げてゐるのである。

航空機師の構造や性能は非常に複雑巧妙であつて、これを修得すべき操縦士は廣汎な知識と優秀な技能を備へてゐることが必要である。この見地から操縦生はまづ航

空機に關する全般的な知識、及び製作技術を習得するために、航空力学、航空發動機學、飛行機構造學、航空氣象學、無線電信學、空中航法學等の修學、及び仕上術、鍛工術、板金術、木工術、機工術等の基礎的技術を習得して後、航空發動機學の分科、組立、運轉及び修繕、即ち航空發動機修繕術を専攻し、更に各地の航空機師製作所、空港等に出張して發動機及び飛行機の現地運轉を行ひ、機師としての一切の技術を習得する。この間、月謝は不用、學用品被服等は貸與される上に、毎月三十圓の手當が支給される。

又操縦士も操縦士も、平時民間航空にあつて活動してゐるものは、一旦有事の際には直ちに國防の第一線に起つ。政府はこの意味から、近い将来には獨立した養成所を設立して、操縦士及び機師を益々大量に養成することになつてゐるが、今年度からはとりあへず例年の操縦生募集人員四十名であつたところを、毎年四十名に増加し、修業年限も二ヶ年を一年半に短縮して、短期間に多數の優秀な航空機師を育てあげようとしてゐる。

今度の航空機師生の募集は十一月二十二日の官報で發表されたが、志願者の費格は工業學校又は之と同格以上の學校卒業生及同學校昭和十四年三月卒業見込の者である。願書受付は十二月一日から二十日までであつて、札幌、仙台、金沢、東京、大阪、廣島、熊本で行ふ試験(學科試験は國語、英文和算、算術、代數、三角、機械圖について行ふ)に合格した者が多く未來の航空機師として養成されることになる。

撮影 内閣情報部



設計實習—
發動機の構造を知悉するために、は種々な發動機の設計圖を研究する必要がある。今操縦生の一人は、神風型の發動機の設計圖模寫に懸命だ。



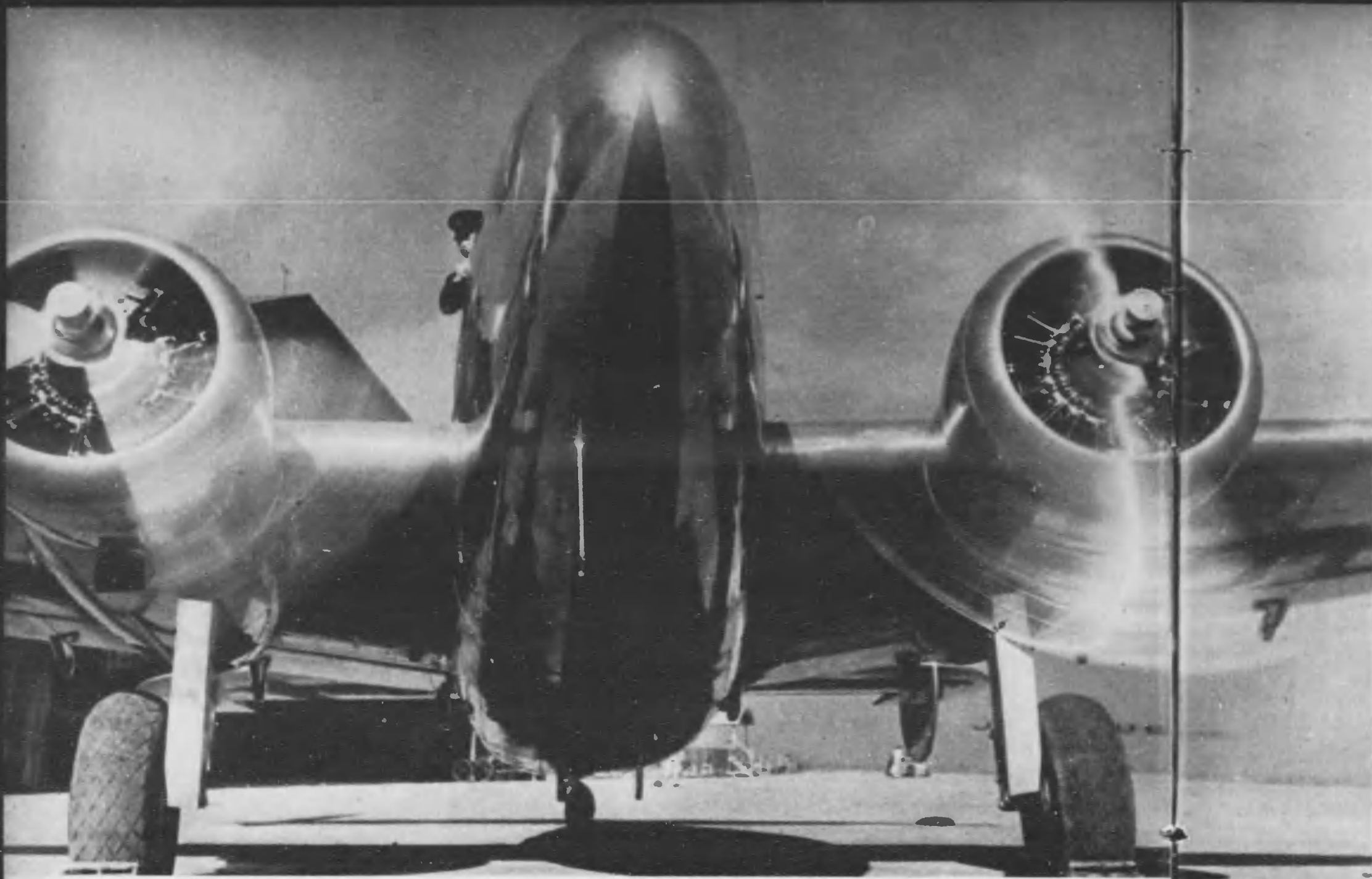
鍛工實習—
新らしい飛行機は大抵全金属製になつてゐる。板金板をつきはせざる鍛工實習は、板金、屈付とともに飛行機製作の基礎實習である。(右下)

鍛工實習—
機體の鍛造も心得ておかなければならぬ。風雨と職ふ愛護のお化粧は機師の役目だ。飛行機のお客師達が平素したあとをラフカー噴霧器が追つて行く。



發動機の分解、組立—
これは操縦士の技術習得に一番大切なことだ。車から保管機換をうけた發動機を丹念に分解して又組立てて行く。

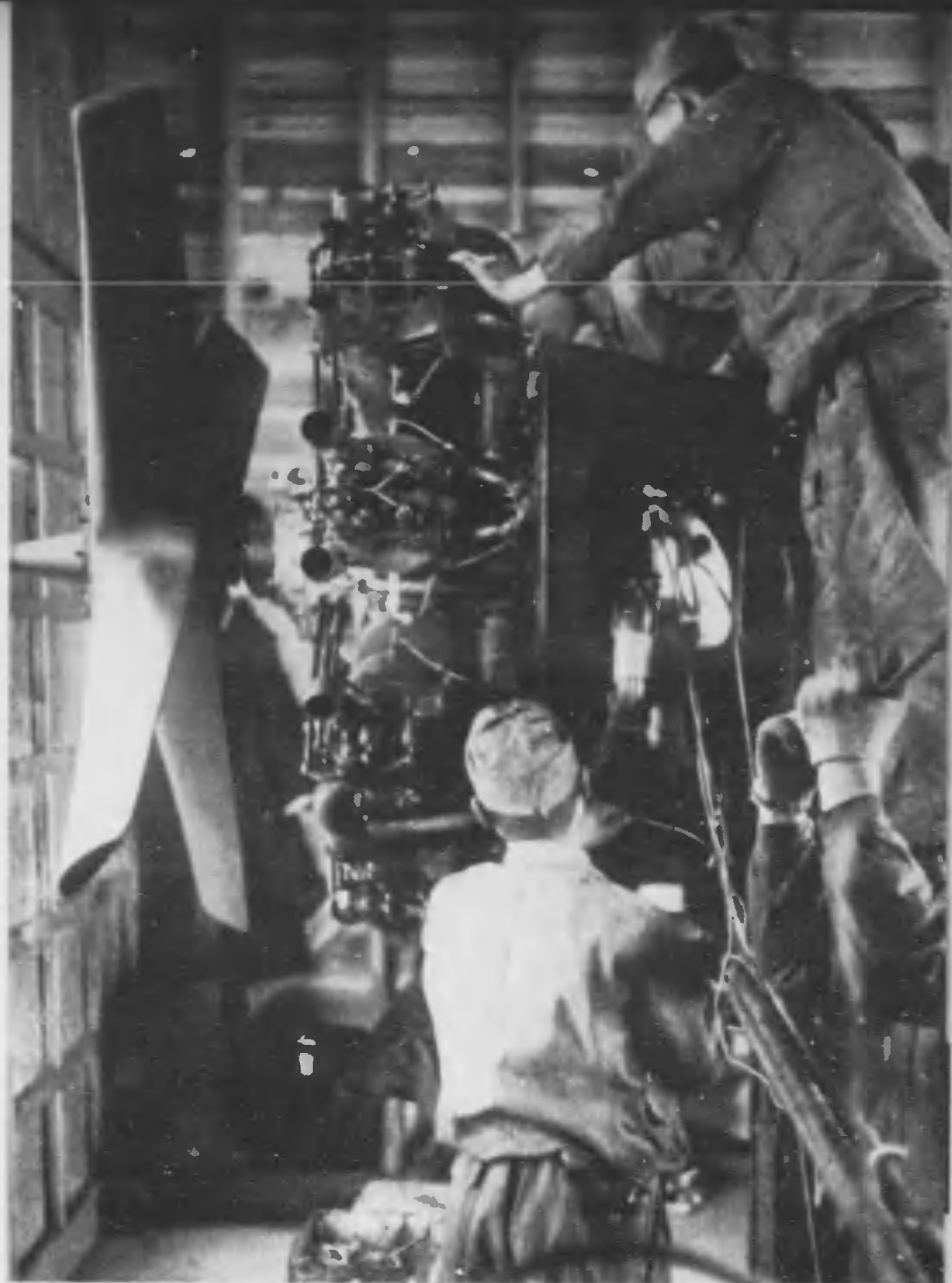




学校で組立を終った發動機は、東京飛行場の現地実習所に運んで運轉してみよう。自分たちの手で組立てたものがうまく回轉するかどうか、機關生たちは胸を躍らせながら最後の無償に懸命だ。

機關生たちは自宅に歸つても飛行機と寸時の間も離れようとしなかつた。訪ねて来た機友と語り合ふのも飛行機、飛行機、若い楽しい夢はやがて現實とならう。

窓から首を出してちつと耳をかたむける。エンジンの調子はこれでいいのだからなあ、まだ充分自信があるとはいへない。が、いまはすぐそれとみわけてみせるぞ。



始動！ 地上の同僚は力一杯アロペライをまはす。シリンドラのガスを検閲して煤煙を容易にするためだ。最新式の飛行機でも自動起動機故障の場合を考へての實習だ。

發動機の修理を今日はわが國最大の旅客機ダグラスDC3型のエンジンで實習する。二十一人乗り、一千馬力の發動機にスパナをまはしては機關士の手は流石に果敢する。

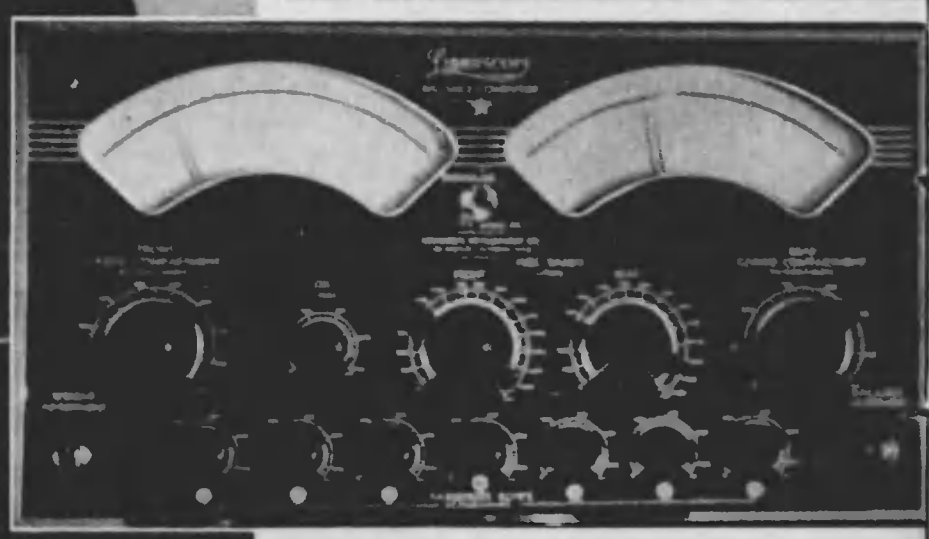
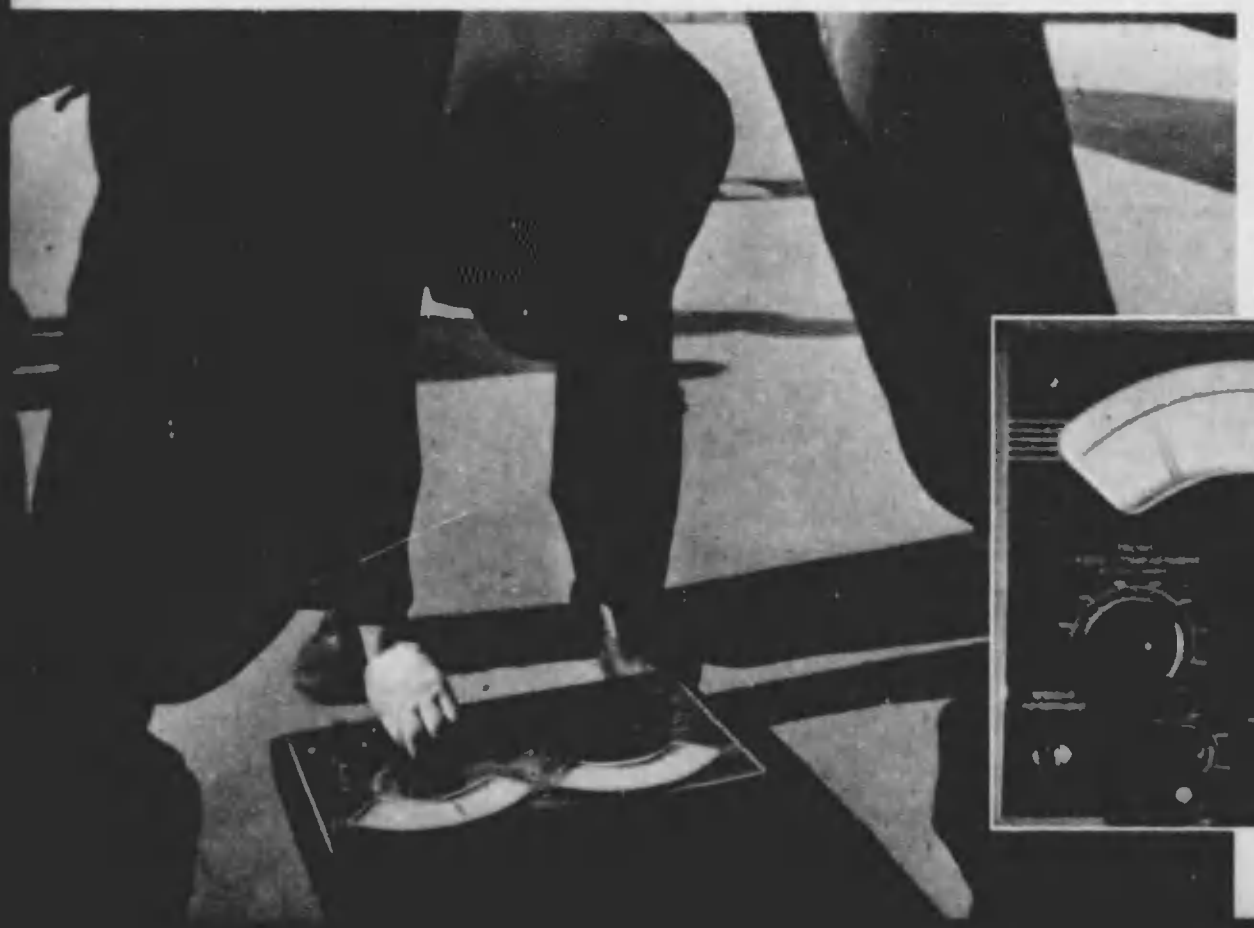




←
 陸軍飛行場に引き出されたロックヒード
 14W型旅客機の構造と性能とを先
 輩の機師にきく「これはね」と語るの
 は先軍中の先軍で、大正十四年全国の興
 望を背つて朝日新聞社の訪歐飛行を完成
 した徳原機師。

⇨
 昨年春、神風號の機師として歐亞連
 結飛行に見事世界記録を樹立した塚越機
 師も第一期卒業生だ。彼動に輝く先軍
 を固んであの當時の苦心勝や、また現在
 敢行をつけてゐる大陸との連絡飛行の
 貴い機師をきく。

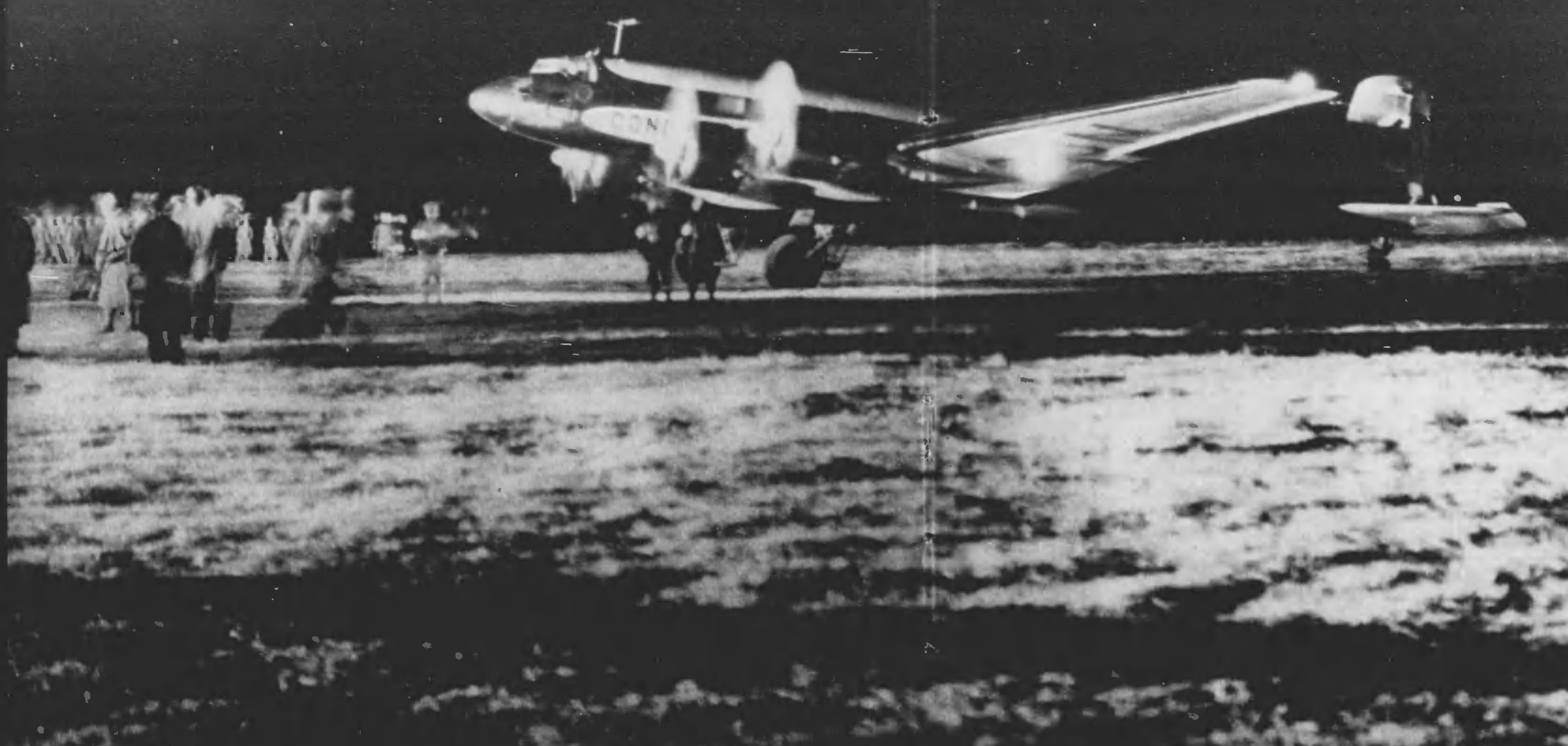
⇨
 先軍の機師がまづ乗
 組んだ。早慶のつめたい
 空気をふるはせて發動機
 の調子は上々、昨日の機
 師機師がうまく行はれて
 ゐるからだ。



⇨
 今日には南京行きがグラス旅客機出
 発状況の實地見学だ。
 まづスクーター前に乗客、貨物、ガ
 ソリン、オイル等の積荷を飛行機全
 體の重心が正規の範囲にあるやうに
 重心指示器で検配する。



訪日ツイド機新記録を樹立す



格納庫に設けられた小室に
響く大機運風歌。

防共、文化の協定に輝く翼を張つて
歐亞の大空を眞一文字に快翔をつ
つげたる盟邦ドイツの訪日機「ヘ
ンケ大尉以下乗組の新鋭「コンド
ル」機は、世界の期待にそむかず
遂にベルリン—東京四十六時間
二十分五十二秒(未公認)二日足
十一月三十日夜、立川飛行場に着
陸した巨鳥は照明燈に浮び出され
てひととき美しく、露夜の弦月に
榮えた。



ヘンケ機長以下、彼れも見せず機内と降り
立ち、日本の土に機首の第一歩を印し。



撮影 森本忠男

日独防共協定二周年を迎へ、事變下のわが國とドイツとの間には文化協定も新しくとり結ばれ、今またドイツの新紙「コントル」が日獨の空を、實業の記録とともに掲載し、兩國はますます相互に心からの親しさを感じてあるとき、東京横浜近郊に在住するドイツ人の子供たち百名は、大森山王にある獨逸學園に毎日平和に集り、勉強をつけてある。

レーチッカ（學園長）の下に、幼稚園から小学校、四歳から十五歳までの盟邦の児童、兒童たちが揃々として、除小僧を本宿で興舞に染め、自轉車のついで通學、清潔と秩序をモットーに男の子も女の子もドイツの歌謡をうたひながら、ヒットラー・ユングと全く盛らぬ生活を日本でつづけてある。



獨逸人の學園
森大京東

お休みの時間、ナチス少年の快活な聲が大森にこだまする。助木の上から海が見えるぞ、羽田を飛び飛行機が見えるぞ。

學校は退けた。自分のことは自分で、ランドセルを引き出して、皮箱の鍵をかけ、ピカ／＼と手入れのついた自轉車で一斉にお父さんのとこへ、お母さんのとこへ。

幼稚園の子供たち。さあさ、ベエちゃんも、グレット（ペン）も仲よくお手つないで、お腹が空いた、ごはん、ごはん、ごはん。

ヒットラー總統の果敢で獨逸合邦はなり大ゲルマン帝國は遂に成立した。大ドイツはかくして成就されたと熱をこめてドクダア、シューウィット先生が説明する地理の時間（左上）

日本に住んで日本の武士道を學ばざるはヒットラー・ユングの恥とばかり、弓に柔道に華剣に少年たちは日本人先生について精進してゐる。そして日本語習得の時間も一週三時間あり「サイク、サイク、サクラガサイク」と講定教科書を讀んでゐる。

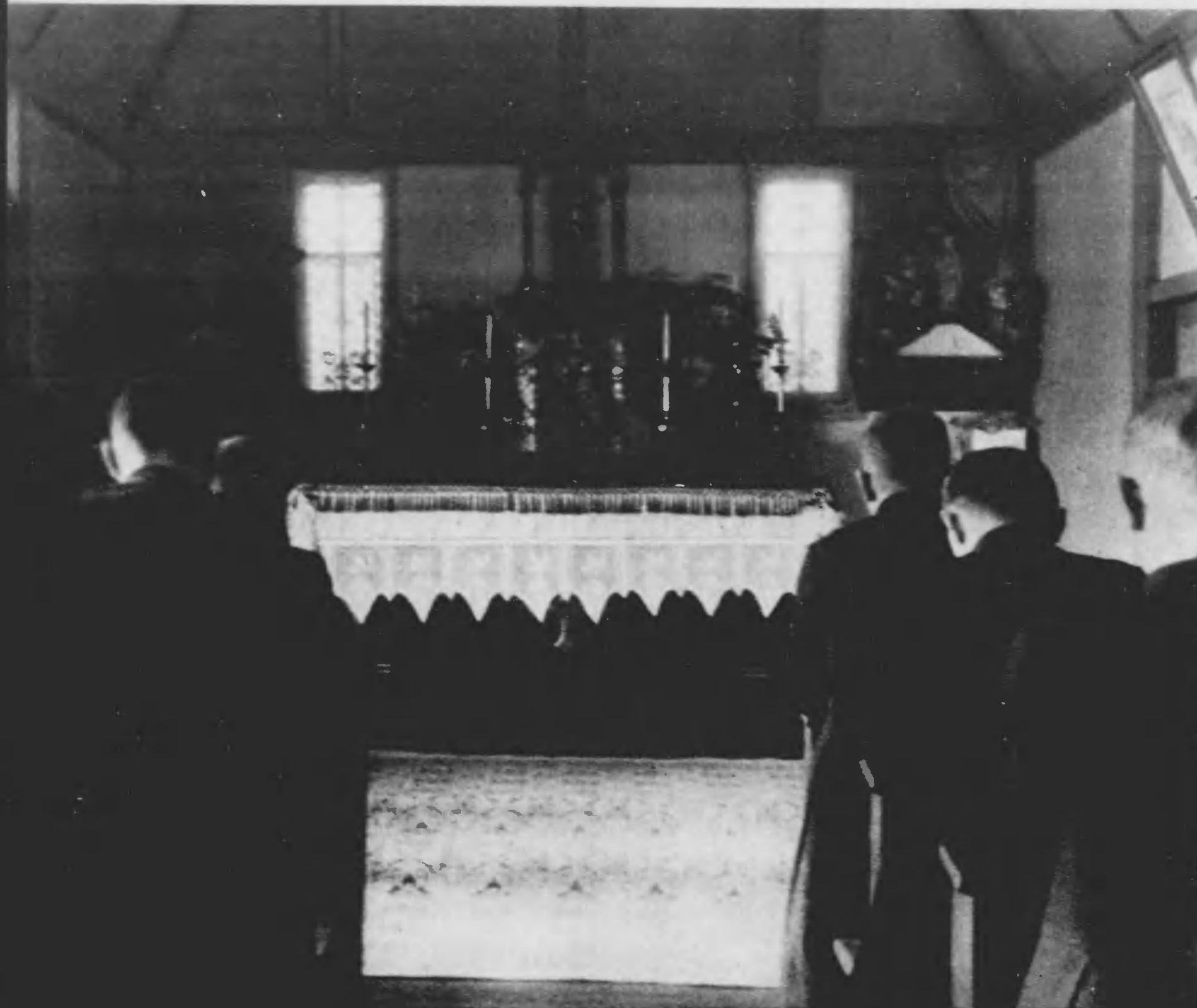




伊太利人の神學校
東京 世田谷

黒色の法衣をきて廿代の青年神徒たちはフットボールを無心に戯れるおひるやすみの運動場。

日本人の學生が日本語の先生になる。黒いカトリックの法衣をまとった神學生は質素な教室の中に囁一つたてず、讀方、習字を丹念に覚えてゆく。



支那軍閥下に日伊兩國がしつかりと防共協定を結んで一年、この年はイタリアからは「ファシスト親善使節團」、經濟使節團をむかへ、又日伊交換教授制度が出来るなど、日伊兩國は精神的にも文化的にもいよ／＼緊密な連絡に達しつつあるが、大衆の獨逸軍閥に學ぶドイツの子供たちと同様、日本在留のイタリア人神學生は、神につかへる敬虔な信仰の生活を平和に東京

世田谷のドン・ボスコ神學校で學んでゐる。
この學校の學生はイタリア人神學生廿五名と日、獨、英、佛、ポーランド、ハンガリー人等十三名で、毎日武蔵野の真中でラテン、ギリシヤの古典を學び、且日本語、日本語を一生懸命に學び、卒業すればカトリックの布教師として支那大陸にもわたり民衆教化に献身するものである。

撮影 牧田 仁



東京週報 昭和十二年二月十二日 第三版 東京新聞社 印刷 昭和十二年二月七日發行 (第一版) 大正十四年發行 第四十二號

…たつ沿に策國
磨齒的濟經・的生衛



用藥

磨齒ブラック



ムシ歯豫防に
健康強化に
この藥效的磨齒を！
長期建設にそなへて、今こそ健康總
動員の時！ その健康を左右する、
歯と磨齒の認識を一層徹底して下さ
い！ 藥用クラブ磨齒の強い殺菌・
藥効作用があつてこそ、始めてムシ
歯や齒槽膿瘍を完全に防ぎ、一層健
康を強化する事が出来るのです。



大正公印
クラブ磨齒

用應許特賣專大八

(本書の大きさは規定規格A4・1冊標準価格)